

リーディングDXスクール事業【実践事例】

鹿児島市立鹿児島玉龍高等学校（鹿児島県）

＜教育利用＞ ② 「数学の授業における生成A Iの利用」

生徒がプロンプトを入力し、生成A Iに問題を作成させる活動

授業概要

- ・ 数学Ⅱの「図形と方程式」と数学Aの「整数の性質」に焦点を当てた授業
- ・ 高校1年生を対象にし、ChatGPTを活用して問題作成・演習

生徒への指示

- ・ ChatGPTを使用して問題作成・演習を指示
- ・ 数学Ⅱの「図形と方程式」、数学Aの「整数の性質」に関連する問題を作成
- ・ 問題の難易度や応用レベルは個々の能力に応じて設定

プロンプトについてのアドバイス

- ・ 役割の明確化や出題する問題の具体性、難易度の指示に配慮

授業の成果

- ・ “Let’s think step by step” を入力することで解答が明確になりやすい。
- ・ ChatGPTの問題文や解答にいくつかの誤りが多く見られたが、修正過程が学習内容の理解に寄与する。
- ・ 問題作成がスムーズで驚く生徒がいた
- ・ 教科書の例題を入力することで、類題がスムーズに作成された。
- ・ 問題のプロンプト作成自体が数学の理解に繋がる

ChatGPTの活用の利点と今後の課題点

- ・ 利点：多様な問題の作成が容易、論理的思考や解答の構造化に寄与
- ・ 課題点：ChatGPTの解答にいくつかの間違いがあり、生徒は検証と自己考察できる力を身につけることが必要

